

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21500764

研究課題名(和文)昭和時代の食物に関する記述データの保存と食文化史的解析 新聞・雑誌・書籍

研究課題名(英文) Storage of descriptive data relating to food during the Showa period and analysis from the perspective of the history of food culture: Newspapers, magazines, and books

研究代表者

大橋 きょう子 (OHASHI, Kyoko)

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：60276615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：日本の昭和時代前半期の食情報の実態と食生活の変容を明らかにすることを目的とし、1927年から1960年までの新聞に掲載された、調理・食品・栄養に関する記事を抽出し、内容を精査した。抽出した記事総数は11,344件(調理5,618件、食品4,092件、栄養1,634件)であった。調理記事は1941年以前と比べて1945年の数年間は激減し、その後増加の傾向を示した。食品記事は外来食品や新品種の紹介など多様化した。1941～1944年は配給食品の記事が激増した。栄養記事は主に栄養知識や栄養価値の啓蒙であったが次第に戦時栄養学の必要性へと変化した。昭和前半期の食生活は戦争の影響が大きいことを認めた。

研究成果の概要(英文)：With the objective of elucidating the actual condition of dietary information and changes in diet in Japan during the first half of the Showa period, we extracted articles relating to cooking, food, and nutrition published in newspapers between 1927 and 1960 and reviewed their contents. A total of 11,344 articles (cooking: 5,618; food: 4,092; nutrition: 1,634) were extracted. The number of cooking articles decreased sharply during the 1948 up to 1945 compared to 1941 and earlier, but tended to increase thereafter. Food articles diversified with the introductions of imported foods and new varieties, but the number of articles on food rations increased sharply between 1941 and 1944. Nutrition articles focused primarily on education on the knowledge and value of nutrition, but the focus gradually shifted to the need for dietetics in wartime and the boom in nutritional supplements. Diet during the first half of the Showa period was found to be greatly influenced by the war.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・食生活学

キーワード：食文化 食生活 昭和時代 新聞 調理 食品 栄養

### 1. 研究開始当初の背景

昭和46年、昭和女子大学の附属研究機関(近代文化研究所)から『近代日本食物史 - 明治・大正編 -』が刊行された。近代国家成立を掲げた明治期以降の食生活の変遷を史実に忠実に残し、未来の食生活の展望の一助とすることを目的として、明治元年から大正末年までの新聞、雑誌、書籍に記載されたあらゆる食物、食生活および食文化に関わる記事の正確な収集により、整理分類した資料書籍である。本書は、他に類を見ない近代食物史のあらゆる要素が正確に収録されており、食物史研究の手引きとして多くの研究者に知られるところとなり、研究論文の引用文献として多いに活用され今日に至っている。しかし、これに続く昭和編がいまだ刊行に至っていない。既刊の『近代日本食物史』に匹敵する内容の、昭和時代の食物および食生活を著した書籍が少ないことも指摘される。そこで、研究代表者は明治・大正編に引き続く、昭和時代の食生活に関する記述データの保存および食文化史的解析に取り組みたいと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は現代的手法に基づいて、これまでに収集した記述資料の全てと、更に補填すべき資料を加え、年別・項目別検索が可能なデータベースを作成し、データをもとに食文化史的解析を行い、昭和時代前半期の食物および食生活の変容を明らかにすることを目的とした。昭和元年(1926)から高度成長期に至る昭和35年(1960)までを昭和時代前半期と捉え、第二次世界大戦を経て大戦後の復興から高度成長期を迎えるおよそ35年間を調査対象期間とした。昭和期における残された記述から、社会の動向を反映する食物および食生活の有様を通して過去を伝承し、現代生活への推移を総合的に考察した。

### 3. 研究の方法

調査対象期間は昭和2年(1927)1月1日から昭和35年(1960)12月31日までとした。調査資料として新聞6社(東京朝日新聞、読売新聞、神戸又新日報、山陽新報、河北新報、北海タイムス)、婦人雑誌(婦人之友、婦人生活、婦人倶楽部、新家庭、婦人世界、家庭画報、主婦と生活ほか)を用いた。資料に記載された食物および食生活に関わる記述を、正確に収集保存し、データベース化する。また、保存したデータをもとに、年月日・各項目・掲載資料別に分類、整理した。昭和2年から35年までを、前期(太平洋戦争勃発以前:昭和2年~15年)、中期(太平洋戦争開始~終戦:昭和16年~20年)、後期(太平洋戦争終結以降:昭和21~35年)の3期に区分し、各期間における調理、食品、栄養の変容を時系列で分析した。

### 4. 研究成果

(1) 食関連保存データ:昭和2年から35年までの調査資料に掲載され、保存した調理・食品・栄養に関する掲載記事の総数は11,344件であった。34年間の推移を図1に示した。

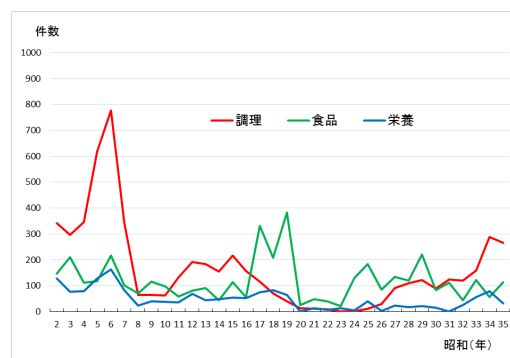


図1 昭和2(1927)-35年(1960)の推移

調理に関する記事は5,618件、食品は4,092件、栄養は1,634件の掲載を見た。太平洋戦争終結後3年間の昭和20年(1945)から昭和23年(1950)の記事件数は他の年に比べて全体的に少なく、特に調理に関するものは著しく減少傾向であった。

(2) 調理に関する内容の変化:太平洋戦争終

結以前の昭和2～19年の調理に関する記事の総数は5,618件であったが、戦後数年間は著しく減少した。特に戦後数年間の調理に関する記事は栄養および食品に関する記事と比較しても少なかった。敗戦後の食糧難において調理に関する記事は、代用食品に関する記事が大半を占め、食糧の確保と代用食の工夫に関する記事へと変容した。しかし、昭和27年以降から次第に記事数は増加の傾向を示した。この背景にはテレビ放送の開局に伴う昭和28年(1953)以降の料理番組の放映がある。料理番組の記事が、新聞に掲載されるようになり急増した。テレビによる料理番組の放送は、日常の食生活に大きな影響を及ぼすことが示唆された。昭和30年代になると家庭で出来る手作り菓子の記事が多くなり、戦後の食糧不足から脱却し食生活が次第に豊かになる兆しが伺えた。

(3) 食品に関する内容の変化:昭和2年～20年までの食関連記事に掲載された食品名について検討を行った。掲載記事中に出現した食品数は、各年の食関連記事事件数とほぼ同様に増加の傾向を示した。特に太平洋戦争開始の翌年、昭和17年以降は食品数の増加が顕著であった。掲載された食品名を食品群別に分類した内訳を図2に示した。また、昭和4年、9年、14年、19年における食品群別記事内容の内訳(調理・加工、栄養、食品・成分、衛生・保存、経済・流通、農業・漁業、節約・代用、配給・供出)を図3-6に示した。各年の掲載記事数に対する出現割合の高い食品群は、野菜類および魚介類で、いずれの年もおよそ20%を占め、年代による大きな変化は見られなかった。一方、果物類および肉類は、食生活が豊かになっていったことを現すように、徐々に出現件数を増やしていったが、昭和15年以降は著しく低下し、各年の掲載記事数に占める割合も減少した。昭和10年ごろまでは出現頻度が低かった穀類およ

びいも・でんぷん類は、戦時下に入ると配給や米代用食品として、頻度が多くなった。このことから食生活に及ぼす戦争の影響が示唆された。

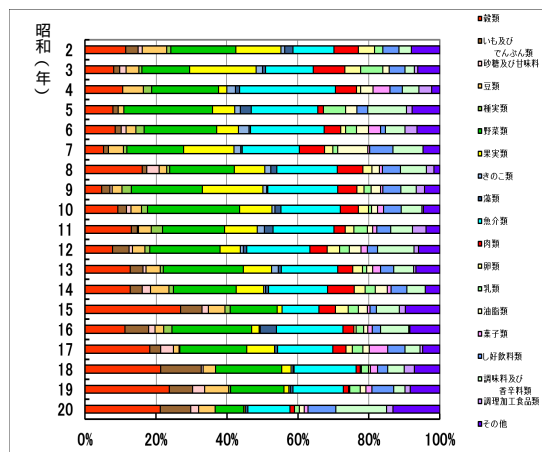


図2 記事に掲載された食品の食品群別割合

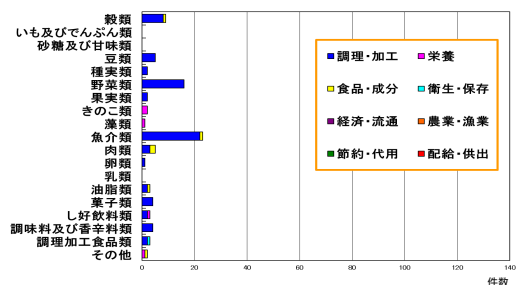


図3 昭和4年の食品群別記事内容

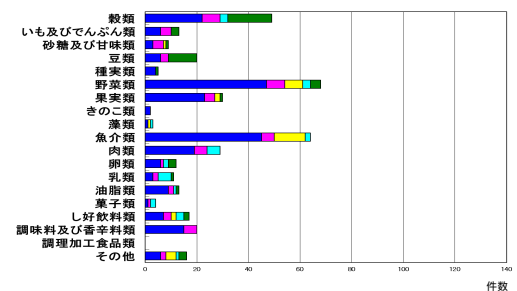


図4 昭和9年の食品群別記事内容

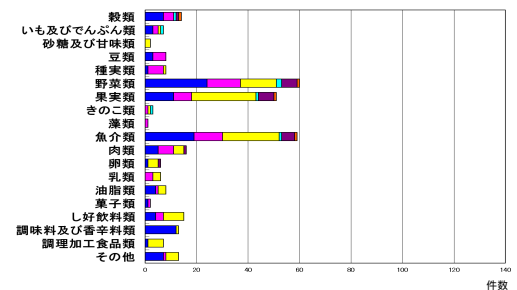


図5 昭和14年の食品群別記事内容

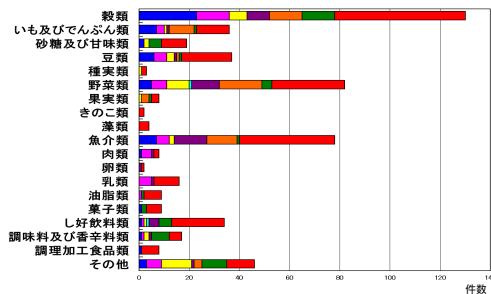


図6 昭和19年の食品群別記事内容

(4) 栄養に関する内容の変化：戦前から戦中期についてかけて「栄養」、「滋養」、「食養」の3通りの表記が見られた。滋養は栄養と同意語として扱われ、食養は病気の治癒および健康を意識した内容であった。これらの表記を全て含めた栄養関連記事の出現件数を図7に示した。昭和2年から5年ころまではビタミンの効果や栄養の科学的知識に関する学識者の啓蒙記事が多く、出現数は少なかったもののその内容はかなり専門的な要素を含んでいた。当時の新聞購読者層がある程度の学歴の高い層であったことが推察された。また料理研究者による栄養料理記事や栄養献立の連載記事など、主に食品の栄養成分や栄養的価値に関する内容へと変化した。戦時下の食糧不足を反映し、パン・うどん・ビスケットなどの代用食品、野草・雑穀類および配給食品の栄養価に関する記事が多くなり、食糧が満たされていた時とは異なった戦時栄養学の必要性を説く内容であった。すなわち戦前期に見られた栄養知識の普及、食品の栄養的価値に関する啓蒙を目的とした内容から、食糧難における非常時局下の栄養確保の必要性を目指した内容へ変化した。昭和26年に調製粉乳に関する記事が出現したことから、乳幼児に必要な栄養素を添加した調整粉乳の発売による粉ミルクに関する記事が多く見られた。母乳栄養の研究および開発が進んだことが窺えた。

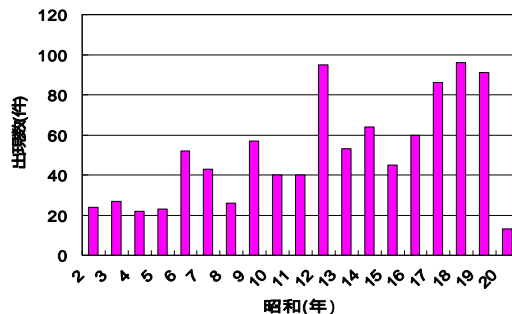


図7 栄養に関する記事の推移

表1 栄養記事の主な内容

項目	内容
栄養知識	栄養素の効果、科学的知識
特殊栄養	母性・乳幼児の栄養、食事療法、運動と栄養、栄養剤について
食品栄養	食品の栄養成分、栄養価と効果
栄養料理	栄養的な調理法、栄養献立
栄養摂取	食品の組み合わせ、食べ方
栄養教育	乳幼児・児童の食事、偏食の矯正、学校給食

(5) まとめ：昭和初頭からおよそ34年間の食生活の変容を主に新聞を資料として整理した。これらの資料を年別、項目別検索が可能なデータベースを作成し、学術資料として整備する必要がある。データベース化により、今後の食文化史および食教育研究に有効かつ多彩な活用が期待される。

### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 2 件)

大橋きょう子、秋山久美子、新聞に見る昭和時代の食生活に関する研究-栄養の視点から-、日本調理科学会、2010.8、福岡市(中村学園大学)

秋山久美子、大橋きょう子、新聞に見る昭和時代の食生活に関する研究-食品の視点から-、日本調理科学会、2011.8、高崎市(高崎健康福祉大学)

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

大橋 きょう子 (OHASHI, Kyoko)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号：60276615

#### (2) 研究分担者：なし

#### (3) 連携研究者

秋山 久美子 (AKIYAMA, Kumiko)  
昭和女子大学・生活科学部・准教授  
研究者番号：80155291

島田 淳子 (SHIMADA, Atsuko)  
昭和女子大学・生活機構研究科・研究員  
研究者番号：60017233